

特集3 | ホスピタリティに見るデザイン

10

# DESIGNING FOR HOSPITALITY

ホテルのインテリア  
ハイアットリージェンシー 京都  
Hyatt Regency Kyoto



「ハイアットリージェンシー 京都」は京都パークホテルのインテリアを全面リニューアルし、2006年、グランドオープンした。敷地は、緑豊かな東山七条の一角にあり、京都国立博物館や三十三間堂に隣接する情緒漂うロケーション。今なお、京都特有の歴史の重みが色濃く残っている。

このホテルの京都進出構想には10年余を要したといわれている。伝統と革新が昇華した「コンテンポラリー・ジャパニーズ」がコンセプト。デザインを始め、地場産業との共存の姿勢などに、その思い入れの強さが見て取れる。そしてオープン5年にして京都を代表するラグジュアリーホテルになった。都市型ホテルの機能性と「見たこともない」と評される斬新なデザインと居心地の良さ、京都ならではのサービスが結実したハイアット・ホスピタリティ…。それが「ハイアットリージェンシー 京都」のたまらない魅力になっているのだろう。

エントランスロビー：右の螺旋階段は、イタリアンレストラン「トラットリア セッテ」につながる



京都というまちは、誰にとっても少々特別な場所であるに違いない。私も、中学校や高等学校の修学旅行に始まり、大学生の時の仲間との気の置けない旅行、その後の仕事で幾度となく訪れたまちであるし、友人も多く思い出も多い。

そうしたまちで、ホテルの計画に携わることになった時は、普段行っている仕事という枠を越えたものがあったのも事実である。たぶん、まず自分が納得できる設計をする

ということが、ひとつの大きなカーテンのように存在したのである。

別の見方をすれば、京都の魅力のひとつはホテルによって成り立っている。美しく整備されたホテルに事欠かないし、さらに、それぞれのホテルのロビーやバーやゲストルームには、そこで出会った友人やその時の旅を含めて、誰も思い出に詰まっている。

そして、まちに出て食べたり、また飲んだり、

その合間に小路を抜けて路地を歩いて店を見たり、友を訪ねたり、旅では当たり前のことだが京都は特別なのである。

—  
店々で見かける木で出来た桶であったり、人形であったり、昔からの菓子であったり、はたまた男女の古着であったり、仏像や古陶などの骨董であったりする。

僕らが出会うとも言えるし、そうした時代が育んできたものが無雑作に、僕らの前に

出現するのである。

なかには、先端をいくファッションであったり、イタリアンやフレンチの店であったり、由緒のあるバーも交わる。それらが入り交じりながら、特別にキラキラ光って見えるのである。

決して古いものばかり保存されているのではない。よく考えると、京都は古いのではない。古くからの時間を交えながらも、極めて新しいのである。つまり、混ざり合った様が

僕らを強く惹きつけるのである。

このホテルの設計を始めた時、何より大事にしたかったのはこのことである。大きく京都に流れている古くからの時間を大事にしながらも、一つひとつの触感には刺激的でなくてはならないと考えた。

この考えが、ロビーそして飲食空間につながり、そしてゲストルームの佇まいにもつながったスタートの考えであった。

通常ホテルなどの設計では、まず、美しい

空間の成り立ちについて考えることから始まる。時には、極めて現代的な場合もあるが、多くの場合、今までの過去の例からそれを探して、そうした例をはめ込むことが多いと言える。しかし、このホテルではそうはしていない。ロビーも飲食空間も唯一な空間を目指したのである。

今の京都のまちに混在する現代、そして僕自身が感じる刺激的な現代をデザインしたかったのだ。

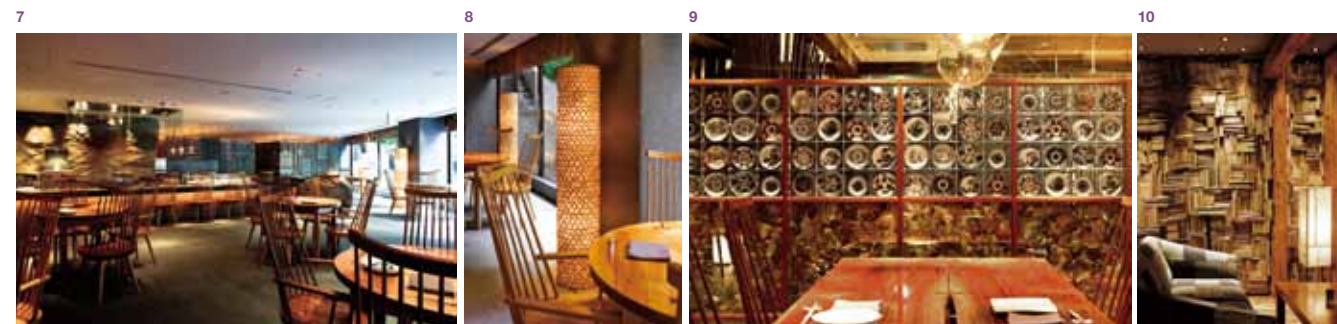
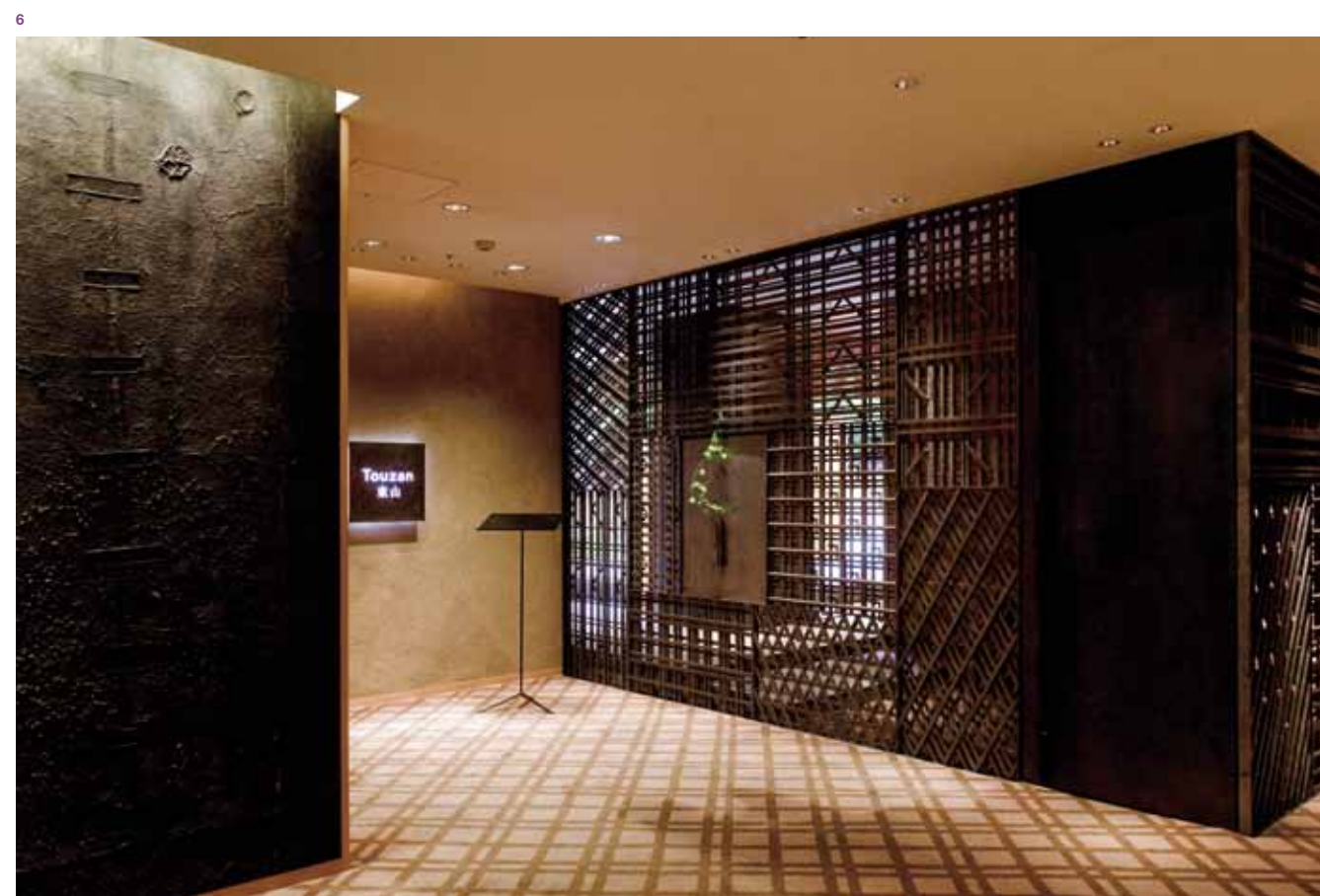
## DESIGNER'S COMMENT

デザイナーズコメント | このホテルの設計をした時…

杉本貴志 | Takashi Sugimoto



- 1—ザ・グリル: エントランスロビー奥のスキップしたフロアにあるメインダイニング。窓際の席は「まるで森の中にいるようだ」と好評だ。天井、壁は古布から抽出したモチーフでアルミ鋳造製
- 2—ロビーのフロアスタンディングライト: デザインモチーフを揃えて和を強調している。格子と和紙をイメージした華奢な雰囲気のポイント
- 3—受付カウンターのフラワーアレンジメント: さりげないインパクトがあり、非日常空間の雰囲気を盛り上げている
- 4—正面アプローチ: 外観は既存のまま残し、インテリアを全面改修している。レンガタイルが京都のまち並みに溶け込み、竹林のアプローチが古都の情緒にぴったり
- 5—イタリアンレストランラットリア セット: 足下から天井まで総ガラス張りの開放的なレストラン。庭の緑がドラマチックだ。版築で仕上げられた円筒はピザ窯



- 6—日本料理店・東山: 京都の路地空間をデザインコンセプトにした和食ダイニング。入り口まわりは格子状のパーティションで、奥が見え隠れする演出が魅力的
- 7—店内は、炭火焼き、寿司カウンター、バーに大きく分かれ、木を基調にシックにまとめている
- 8—竹籠調のフロアスタンドと木製の椅子: 明るさを抑え、和と洋が混在した見慣れた空間だが、どこも新鮮な雰囲気が漂う空間だ
- 9—個室: 全国から収集したやきもの皿をパーティションに組み込んだプライベート空間。人の気配を感じる居心地の良さがある。何度来ても楽しいと人気が高い
- 10—Touzan バー: 古本を積層した奇想天外のボックススペース。ソファの布地は古布を継ぎはぎした杉本氏オリジナルのデザイン



「ハイアット リージェンシー 京都」は、京都パークホテルのインテリアを全面改修し、2006年、グランドオープンしました。インテリアデザイン界の巨匠・杉本貴志先生が掲げたテーマは“コンテンポラリー・ジャパニーズ”。「京都の魅力は古いものと新しいものが共存していること。その一端を担うのがホテルである」、そして「伝統とは、実はリノベーションの繰り返しであり、守りながら時代に合わせて変革する刺激的な

の」という考えに、私もはインスパイアされ、それをバックボーンに、ハイアットの本来のおもてなしをご提供したいと考えました。当館には、土地に根づく文化、記憶、技術を現代風にリ・デザインした刺激的な空間が随所にあります。それらには不思議に心休まる懐かしさがあります。例えば、着物の古布には時代特有の文様や色、人の手の温もりが感じられます。格子や緋、小紋など古布から抽出したモチーフが、ホ

テルのエントランスロビーを始め、レストラン、バー、宴会場など個性あふれる空間になって登場します。特に、エントランスロビーは優雅でありながらインパクトが強く、一歩踏み入ると自然に非日常空間に誘われます。客室の床や壁、ヘッドボードのタペストリーなども、古都らしさをさりげなく演出しています。また、日本料理店の「東山」にはデザイナーの強いこだわりが感じられます。日本各

地で収集したタイルや民具、古本などを素材に“京都の路地空間”がつけられています。その印象深い雰囲気は「何度来ても楽しい」と評判を呼んでいます。当館のリニューアルオープンにあたって、「ホテル事業に携わる産業全体を地元の方で支えていく」というスローガンを掲げました。地元で親しまれるものをお客さまにご紹介することで、京都の活性化につながりたいと考えています。例えば、全客室は京

都の老舗メーカーによるカーペットに、京都で開発された撥水性、防汚性の高いパールトーン加工を施した特注品を敷き詰めました。オフホワイトの床は、オープン時そのままです。また、客室に備えるペットボトルの飲料水は、京都の銘酒メーカーの特選品。甘みがあると好評です。毎日使われる京野菜も地産の新鮮なものにこだわっています。建物だけが素晴らしいのではなく、また、サ

ービスだけが素晴らしいのではなく、その両方の機能と温かさが合致してこそ、ハイアットブランドのおもてなしであると考えています。(談)

【建築概要】

名称：ハイアット リージェンシー 京都  
所在地：京都府京都市東山区三十三間堂通り644-2  
敷地面積：11,844.76㎡ | 建築面積：5,972.89㎡ | 延床面積：27,358.96㎡ | 客室数：189室 | 開業：2006年  
ホームページ：www.kyoto.regency.hyatt.jp  
総合監修：杉本貴志

## HOTEL'S COMMENT

ホテルズコメント | “コンテンポラリー・ジャパニーズ”をテーマに

横山健一郎 | Kenichiro Yokoyama

11



12



13



14



15



- 11—客室・リージェンシー エグゼクティブ 스위트 キング：和室と洋室の2部屋のタイプだが、襖を開けるとひと続きになる。1階にあり、地下レベルの庭の景色を間近に楽しめる  
12—ベッドルーム：客室ごとに組み合わせが異なる古布のヘッドボード・タペストリーは、部屋の印象を一変させる。ウォールナットの落ち着いた壁との組み合わせが絶妙  
13—踏み込みから和室への入り口は高さを押さえた鬮口風の仕様になっている  
14—和室のチェストは埋め込み型。壁にすっきりと納まっている  
15—客室階エレベータホール：モダンだが静謐な和の雰囲気を醸し出している。竹簾や、スギ板にフロア数字を焼き文字でデザインした案内板が、さりげなくて美しい

16



17



18



19



20



- 16—客室・ゲストルーム キング：最も標準的なタイプ。部屋全体の色調をシックに抑え、ヘッドボードの古布の組み合わせによって古都の伝統と華やきを絶妙に表現している  
17—ライティングデスク：白木を基調に落ち着いた色調でまとめている  
18—パールトーン加工を施した客室のカーペット：撥水性、防汚性が高く、効果が持続する。全客室の約5,000㎡の床に敷かれている  
19—客室・デラックス バルコニー キング：人気の高いバルコニー付きの開放的な客室  
20—バスルーム：バルコニータイプは特製のヒバ材の浴槽付き。バルコニーからは京都国立博物館が目前…